

# 酒田市の少子化と学校の現状

総合教育会議資料 3-2  
平成 27 年 5 月 25 日

- ・人数は、平成27年4月30日現在の住民基本台帳の住所地の学区から算出したもの。
- ・学区外通学の場合は考慮していないため、実際の学校の人数と異なる場合がある。
- ・太線で囲っている個所は複式学級（平成27年5月1日現在）。
- ・小学1年生を含む場合は2つの学年で8人以下、小学2年生以上の場合は2つの学年で16人以下で複式学級となる。

平成27年度 小学校区別 11歳以下人数（年齢は、平成27年3月31日における満年齢） 単位：人															
No.	学区名	0～5歳 計						6～11歳(小学生) 計						計	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 (小1)	7歳 (小2)	8歳 (小3)	9歳 (小4)	10歳 (小5)	11歳 (小6)		
1	琢成小学区	28	23	18	29	26	30	154	31	32	48	22	32	38	203
2	浜田小学区	32	38	24	37	38	37	206	41	33	25	52	40	39	230
3	若浜小学区	52	57	58	42	71	49	329	58	53	51	46	57	52	317
4	富士見小学区	62	76	53	57	58	77	383	72	70	54	63	62	65	386
5	亀ヶ崎小学区	71	76	73	67	78	71	436	74	81	84	66	97	96	498
6	松原小学区	101	103	88	84	109	109	594	98	103	100	95	97	96	589
7	松陵小学区	21	35	38	44	32	48	218	50	59	58	46	49	52	314
8	泉小学区	51	51	62	54	57	65	340	59	58	51	70	80	69	387
9	飛鳥小学区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
10	西荒瀬小学区	18	22	22	13	21	15	111	21	17	19	16	19	18	110
11	新堀小学区	8	8	17	6	17	15	71	6	15	11	16	17	16	81
12	広野小学区	9	9	9	9	16	11	63	12	21	18	12	20	22	105
13	浜中小学区	14	8	14	8	14	8	66	11	8	12	13	18	18	80
14	黒森小学区	5	6	4	7	5	2	29	9	9	8	7	7	12	52
15	十坂小学区	34	33	33	37	37	39	213	33	40	39	38	47	46	243
16	宮野浦小学区	42	56	65	68	61	67	359	67	62	59	65	64	72	389
17	平田小学区	21	31	23	30	22	26	153	31	26	31	35	23	37	183
18	鳥海小学区	10	13	20	13	26	19	101	25	30	25	23	31	30	164
19	南遊佐小学区	6	6	8	4	3	11	38	6	8	8	8	7	9	46
20	一條小学区	10	9	6	6	13	19	63	11	13	15	17	17	17	90
21	八幡小学区	17	28	19	24	27	20	135	28	31	26	30	37	38	190
22	地見興屋小学区	1	1	2	6	3	7	20	6	7	5	8	5	7	38
23	松山小学区	8	7	9	7	6	8	45	7	12	13	11	13	16	72
24	内郷小学区	7	4	10	10	7	5	43	10	10	8	5	16	10	59
25	田沢小学区	4	0	3	1	7	5	20	3	3	5	3	4	7	25
26	南平田小学区	27	35	32	33	26	47	200	53	40	40	57	41	60	291
計		659	735	710	696	780	810	4,390	822	841	813	825	900	943	5,144

平成27年度 中学校区別 14歳以下人数（年齢は、平成27年3月31日における満年齢） 単位：人																			
No.	学区名	0～5歳 計						6～11歳(小学生) 計						12～14歳(中学生) 計			計		
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 (小1)	7歳 (小2)	8歳 (小3)	9歳 (小4)	10歳 (小5)	11歳 (小6)	12歳 (中1)	13歳 (中2)	14歳 (中3)			
1	第一中学区	84	97	89	99	96	117	582	116	124	138	106	125	130	739	146	123	142	411
2	第二中学区	89	106	95	90	116	93	589	113	98	96	109	96	112	624	122	138	127	387
3	第三中学区	172	179	161	151	187	180	1,030	172	184	184	161	194	192	1,087	172	207	170	549
4	第四中学区	112	120	142	135	150	142	801	138	155	147	151	173	186	950	175	196	185	556
5	第六中学区	112	130	114	117	113	137	723	134	126	103	135	141	128	767	157	147	158	462
6	飛鳥中学区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	1
7	鳥海八幡中学区	43	56	53	47	69	69	337	70	82	74	78	92	94	490	84	104	99	287
8	東部中学区	47	47	56	57	49	72	328	79	72	71	84	79	100	485	101	95	90	286
計		659	735	710	696	780	810	4,390	822	841	813	825	900	943	5,144	957	1,010	972	2,939

## 一般的に想定される小規模校の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる
- ④ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある
- ⑦ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

【出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日文部科学省）】

## 一般的に想定される小規模校のメリット

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

【出典：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日文部科学省）】